

## Blackboard@Tamagawa 活用事例

01

芸術学部パフォーミング・アーツ学科教授：法月 敏彦先生

### Blackboard 補講の試み

法月先生は、芸術とくに演劇（芝居）を専門分野にされています。能、文楽、歌舞伎など日本演劇史の研究をはじめとして、国立劇場で芸能資料調査や伝統芸能技芸養成事業に、国外で演劇資料調査や大学での教育活動に取り組まれています。

また、本学の教育活動においては、「演劇史基礎」、「現代演劇史」、「戯曲入門」、「日本演劇史」などを担当されています。

今回は、対面による補講の実施が困難な場合の対応として、受講生をより意識した構成で Blackboard@Tamagawa（以下 Bb）を活用されている事例を紹介いたします。



#### 科目の実施規模と Blackboard の活用

- ◆ 科目名：戯曲入門（芸術学部 1 年生 43 名）
- ◆ 授業の概要：演劇を成り立たせている要素のひとつである戯曲（台本・テキスト）を、具体的な作品の読解方法の会得を通して、現代における戯曲の意味を「上演」という観点から追求していく。とくにギリシャと日本の古典演劇とその台本の具体例を通して、現代の戯曲形式との本質的な違いを述べていく。

#### Web 補講実施の重大な理由

最近の厳しい大学教育の現状を反映して本学でも最低授業回数確保が常識となり、やむを得ない休講に際して補講の質的向上が求められることになった。もともと古い体質の大学は知らず、もはや休講というものが許される時代ではないであろう。

しかし、実際問題としては、大学全体の行事に伴う休講などがあり、その場合は、学生本人が教室に来られず、補講せざるを得ない。また、

実技実習の盛んな芸術学部では、夜間や土曜の補講は実質的に行うことが難しい。補講時間と実技実習時間が重なるからである。従って、学校行事などの理由による休講を補う方策としては、現状では Bb を使用した Web 補講しか実効性がないということになる。

#### Bb 補講の試行例

既に試みた Bb 補講の内容を簡単に示す。

- (1) 補講ビデオ（約 15 分間）
- (2) 課題論文の熟読（120 分以上）
- (3) 課題報告書の作成（120 分以上）
- (4) 報告書の送付（電子メール添付）

以上を評価して、補講の出席とするかを判断した。

この補講は全体の所要時間としては、授業時間の 100 分（2 単位の場合）を超えてしまうが、単位認定に必要な予習復習の時間（200 分）が大凡含まれていると考えれば、この Bb 補講が、いわば効率の良いものであることになろう。

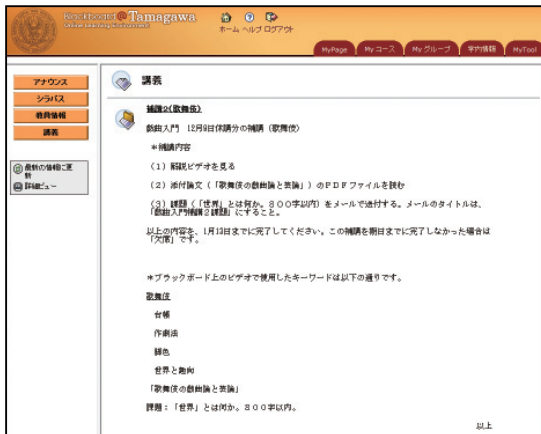


図 1. Bb 補講指示画面

### 補講内容の詳細

補講内容の各項目についてももう少し解説を加える。

#### (1) 補講ビデオ

基本的には、一回分約 15 分間程度の短い講義を録画した。15 分という短さの根拠は、このビデオを見る受講生のパソコン環境、また、一般的な集中力の持続可能時間などを考慮した結果である。小さな画面のモニターで長時間のビデオ鑑賞は無謀だと考えた。

因みに、講義や講話なども、一つ的话题を 15 分程度にして話題を切り替えていくと受講者の興味を持続させることができるらしい。なお、録画を行う際は、板書の代わりに、重要と思われる用語を印刷し、その紙を磁石付きの透明なファイルに入れ、適宜ホワイトボードに貼りながら講義を行った。このようにすると、自筆でボードに書くよりも、素早く鮮明に録画できるからである。

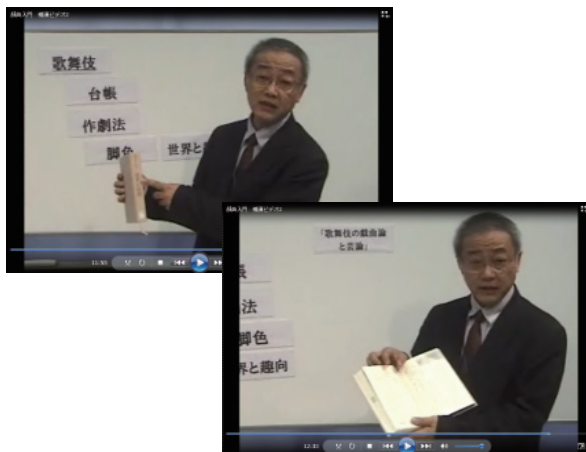


図 2. Bb 補講用動画

なお、2 回以上、同じ補講で録画を用いる場合、2 回目の冒頭に 1 回目の要点を短く纏めて話すことにした。それは、受講生の都合で視聴に間隔が開いてしまう場合が想定できるからである。

#### (2) 課題論文の熟読

ビデオを見るだけでなく課題論文も Bb に添付して読んでもらうことにしたのは、補講内容を更に深く理解してもらいたいからであり、その熟読時間も補講の一部に算入するためである。ただし、ここに添付する論文は、補講内容に即したもので、かつ、私自身の執筆した論文に限定した。著作権の問題もあるだろうが、なによりも講義に代えるものであることがその理由である。つまり、自分自身の論文がない内容は補講に採用できない訳で、厳しいことかもしれないが自らに課した。

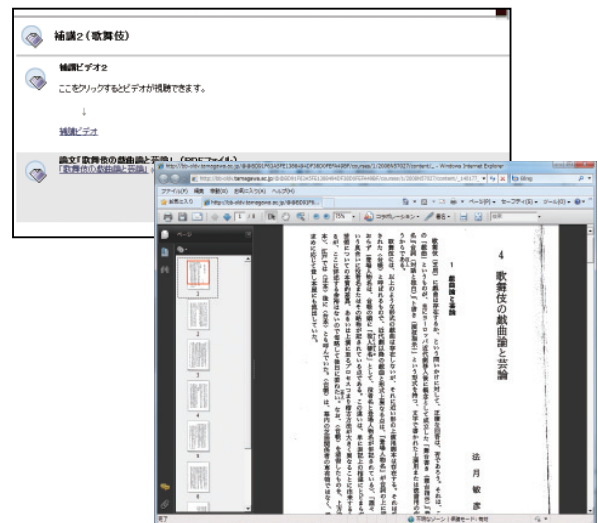


図 3. 課題論文のダウンロード画面

#### (3) 課題報告書の作成

短い講義ビデオと課題論文を元に、その内容をまとめ、受講生自身の考察を加えたレポートを作成して受講の証とした。

今後の課題としては、提出されたレポートを締切後に受講生全員が閲覧できる機会を Web 上に設定することである。このような機会を通して、一種の復習ないしは理解度の補完が期待できるためである。

以上簡単だが、Bb 補講の試行例として多少の参考になれば幸いである。

## 授業収録ソフト「Xinics Xpert」ご紹介

対面による補講講義が困難な場合の対策の一つとして授業収録ソフトを紹介します。

「Xinics Xpert」は、教員の講義映像・音声とPowerpointやWord等の講義資料を組み合わせることで教材を作成できるソフトウェアです。ご自身でノートパソコン・Webカメラ・マイクを使用して録画することで、資料と動画を同期させたコンテンツが作成いただけます。

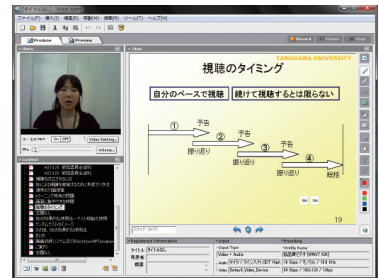


図4. Xpertでの授業収録

なお、Bbを利用した補講には、各学部教務主任の先生と事前によくご相談下さい。

### ◆ 動画コンテンツをBbへ掲載

作成した動画コンテンツをBbコースへ掲載することで、受講生は自分の好きな場所・時間に視聴することが可能です。



図5. 授業収録とBbでの視聴の流れ

### ◆ 受講者のフィードバック

対面授業とは違い、eラーニングでは受講生の反応を直接見ることが出来ません。そこで、「テスト」「レポート提出」「ディスカッションボード(BBS)」などのBb機能を使って、講義を視聴しなければ回答できない課題を課し、動画コンテンツと効果的に組み合わせることで視聴の根拠ならびに理解度の把握のひとつとなります。



図6. 視聴後のBb課題

◆メディア教育推進室で「Xinics Xpert」を使用できるノートパソコン、Webカメラ・マイクの貸出、ソフトの操作方法とBbコース掲載などをご案内いたします。授業収録からBbコースの掲載まで3～10日程度かかりますので、ご注意ください。

## 科目担当者研修会のご案内

### ◆科目担当者研修会「Blackboard システムを利用した補講の方法」

学士課程教育センター主催の科目担当者研修会「Blackboard システムを利用した補講の方法」が下記の日程で開催されます。メディア教育推進室の職員が講師となり、Tips2でご紹介した「Xinics Xpert」の操作や Bb への掲載方法をご説明し、実際に授業収録を行った動画教材のサンプル等をご視聴頂けます。

研修会後に質問対応のお時間もありますので、補講対策だけでなく普段の授業でも Bb や動画教材を使用したいとお考え中の先生もぜひご参加ください。参加方法につきましては、学士課程教育センターより学内便にて配付された平成 22 年 9 月 20 日付「科目担当者研修会開催について（ご案内）」をご確認下さい。

科目担当者研修会「Blackboard システムを利用した補講の方法」日程

日時	場所
10 月 20 日（水）17:15 ～	大学 9 号館 404 教室
11 月 18 日（木）17:15 ～	大学 9 号館 404 教室
12 月 10 日（金）17:15 ～	大学 9 号館 400 教室

### ◆プログラム内容

#### ① Bb による補講を実施するための流れ

e ラーニングによる補講の実施を検討する際の流れ、必要な資料、注意事項など

#### ② 講義収録システムデモンストレーション

「Xinics Xpert」を使用した授業収録から Bb 公開までの流れ

#### ③ Bb による補講を実施するために考慮すべき点

通常の対面授業にはない、e ラーニング特有の問題を解決するための、講義収録の工夫と Bb の活用法について

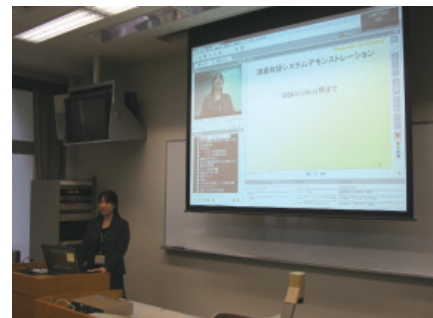


図 7. FD 研修会

特に、講習会では e ラーニングで補講を実施する上でご配慮いただくことや、e ラーニング特有の問題を解決するための具体策を中心とした説明をいたします。また、上記の F D 研修会の日程にご都合がつかない場合には、メディア教育推進室までお問い合わせください。学部や学科単位でのご要望があればどうぞお知らせください。

### 編集後記

今回は、対面授業による補講日の確保が困難な場合などの、休講を補う方策のひとつとして、Bb を使った事例を芸術学部法月先生よりご紹介いただきました。それに伴いご案内した授業収録ソフトについては、特別なスキルは全く必要なく、簡便にコンテンツ作成ができます。前号掲載のランダムテストの機能等 Bb と組み合わせてお試しください。

秋学期も Blackboard@Tamagawa をご活用ください。

e-Education NewsLetter 2010 Vol.3

2010 年 10 月発行

玉川大学

e エデュケーションセンター メディア教育推進室

東京都町田市玉川学園 6-1-1

Tel : 042-739-8820

Fax : 042-739-8825

e メール : bbhelp@tamagawa.ac.jp